

NPO法人 お産サポートJAPANの 歩み

ニュースレターから見る10年の軌跡とこれから

2012.7.8

設立10周年記念講演会&総会

活動の前兆・・・始まり

【男性助産婦導入問題】

活動の始まりは**2000年春**、「助産婦資格の男子への対象拡大」が新聞に掲載されたことが発端でした。

一般市民だけでなく、当事者の助産婦にとっても寝水に水。男子への対象拡大がなぜ必要なのだろうという強い疑問、これを契機に、男性助産士導入の賛否やお産のあり方、環境に関する多様な議論が日本各地で起き、産む女性たちの声を衆参両院の議員に届けるという活動に発展しました。国会の場でもお産環境をめぐる活発な議論が行われました。このときの活動の中心となった人たちが「NPO 法人お産サポートJAPAN」の発起人となりました。

私たちは発起人として活動する中で、より良いお産の環境を実現するためには、専門家だけでなく、当事者、家族、様々な立場の人たちとの意見交換、情報の共有、具体的な方向性を見いだしていくことが必要であることを学びました。その上で、出産環境に関して得られた情報を多くの人に発信し、政策を提言することが不可欠であるという認識に至りました。

2年間の準備期間を経て、「NPO 法人お産サポートJAPAN」誕生。

会の目的と活動

私たち「NPO 法人お産サポートJAPAN」は、女性の出産環境を守り、その環境を改善すべく政策提言を続けている、女性・多職種・研究者等の団体です。男性助産士問題に取り組む有志により、市民活動の視点からお産の問題に継続的に取り組んでいこうと、2002年3月30日に特定非営利活動法人として出発しました。

目的は、「すべての産む女性とその家族が幸せなお産を体験することができる社会の実現に寄与すること」、事業を通して出産環境の改善を目指しています。

活動は現場で、地域で、教育で、 女性の声を政策につなげる

2002年6月

「エイボン・グループサポート」の助成グループに首位で選ばれ、滋賀県で開催された「いいお産の日in滋賀」では「癒し癒されお産体験コーナー」を設け、女性たちの声をまとめました。

さらに、お産のケアの担い手である助産師の教育に関する問題を検討し、その結果「女性に支持される質の高い助産教育への転換に関する請願」を掲げた署名活動を行い、衆議院に35,054名、参議院に36,266名の署名を届けました。

お産が女性の『ちから』を産むために
助産や産婦人科医療に重要な人権の尊重
女性の安全と健康のための
支援教育センター運営委員
講師
三輪和恵氏







けや、出席を断る事をいたしました。
 事には無常の喜びであつたという事は
 事出席であるだろうか(高直である)
 事は確かです。その中で医師に
 は「アドニス」も同じく財産婦人
 は十分にあらうと思ふ。医師の
 は「さや」も思ふにまた安心して
 の財産婦人への存在は非常に
 一、優秀な財産婦人であることをより強く
 少年化社会には余計に
 しょうか。

主女

けがな数量に参加しました。
 したがって良いかと思っております。
 以上と下宿もあつたと思うのでこのようにな
 り、何回か行けるように設けて
 ほしいと話す機会があらばいいかとい
 う考えも多様化してきたのでそれによ
 りお話し聞けたらよいかなと思つていま
 す。やはり師匠様(希純)にお話しにより
 お話したい。その師匠様には
 いろいろ専門的なこと、いろいろな
 事、総合的な知識も必要だと
 ころに希望と相違ない方々が身近な
 ところには相違ない感じがします。

「出来て安心するよな事を
 らえる助産婦さん。病院では
 いる雰囲気がないので」と
 (マミーハウス)があれはいいと
 の場所を矢口たのが遅かった
 けれどよかった。

匿名希望

・新年度訪問のようなものを34月、64月とかの
多休に2休にも是非やって頂きたいので。
助産婦育成には十億円を入れてもらいたい。

匿名希望

できるだけ臨床経験を積んでもらい、
机上の知識だけの助産婦さんではない方の
育成を望みます。

主婦

最近帝王切開が99.1%だそうです。なるべく自然分娩
をしたい。産婦から(妊婦も含む)相談される
ような助産師になるために「精神科でも育成に
ほしい。昔からの家庭医療と現代医学の発達した
病院分娩の良い面と二者に駆使したお産の
方法を望みます

匿名希望

・お蔭は失敗が許されたので育成の短縮化は
していないでほしいです せいの母

世の母

・常に安心して出産するためにも助産婦さんの育成に
必要な場所が減るのは悲しい事です。

匿名希望

お席のとき、先生はその時々でこゝに來られる
だけで長いお席の間本当に頼りになるのは
助産婦さんでした。つてくれる助産婦さんに
よつても ぜんぜん違います。一生懸命お世話して
くださる方、仕事に熱い思いをもち、助産婦の
仕事をされる方が どんどん増えてほしい。どんな
方でも助産婦さんになりたいと思ったときにはなれる道
があることが 大切だと思います。その道が
開かされて しまうのは 絶大歓迎は なければ
なりません。是非、専門学校をのこして 頂きたい
です。

一児の母



私の出産は病院には助産婦さんはおられませんでした。(1人目のとき、呼吸法等がわからず誰かそばにいてほしかったけど看護婦さんはいないで母と心音を測るだけで見てばかりで、ちゃんと呼吸法は教えてほしかった)という具体的な指導はほとんどなかった。産科方法やお産のメカニズムなどもほとんど看護婦さんの指導もなかった。2日、3日にはお産は止まっていたけど看護婦の顔を見るのは極度の時だけ。そういう指導等はない。初めての産はわからない事ばかりです。母子保健サービス、出産性、そして早い時期の訪問をお断りした。1ヶ月以上してから訪問。医者の希望

用名聲望

滋賀県の乳児医療施設が少なく、但馬から来た私は病院探しに苦労しました。出産には27時間ある場合、子供の事も心配になってくるので、出産にすぐに専門のスタッフに子供の事を今とてもらえるよう母と医療(母性医療・乳児医療)が充実し連携もその取れるよう、また、情報も一般の人とより易いようにしてほしい。





産む環境を守りたい

2006年3月から

「出産の安全を確保するために、看護師等の内診や助産行為に反対する請願」と「産む女性が出産場所の選択肢を確保すると共に、安全の保障をするための請願」署名、および「助産所と自宅における出産の安全の確保と支援に関する請願」署名の2種類の署名活動。

現在は、出産場所の集約化にともない、産む女性が身近で安心できる出産の場所をみつけられず、継続的なケアや必要な医療が受けられない事態に対して、その改善に向けて積極的に活動し、国会議員・行政担当官との助産問題に関する勉強会を継続して開催。

事業内容

(1) よりよいお産環境の啓発事業

- ① ニュースレターの発行
- ② よりよいお産に関するイベント、お産に関する研修会・シンポジウム・お産体験の交流会の開催事業
- ③ ホームページの開設・運営
- ④ お産教育および性教育に関する講師派遣

(2) お産と性に関する相談・情報提供事業

- ① 産む女性およびその家族を対象とした相談・情報提供事業
- ② 思春期の人を対象とした性に関する相談・情報提供

(3) お産環境、お産体験に関する調査・研究および政策提言活動

- ① 出産場所・施設に関する調査研究
- ② 助産師養成制度に関する調査研究
- ③ 幸せなお産やお産での傷つきなどの出産体験の聞き取り調査
- ④ お産環境に関する政策提言

ニュースレター 準備号 2002年

J0	2002.1.24	●参議院厚生労働委員会を傍聴して／厚生労働委員会審議を機に出産環境の改善を／本の紹介 『21世紀のお産を考えるー2000年男性助産婦導入問題から』
J1	2002.1.24	●国会で出産環境の改善めぐり議論
J2	2002.1.28	●名称改正提案の裏に隠された15年前の「看護制度改正方針」
J3	2002.1.28	●女性は出産がいいとき子どもがいとしくて
J4	2002.2.16	●「男性助産婦導入」問題、私はこう思うー緊急アンケート結果報告第1弾
J5	2002.2.16	●「保助看一本化」問題、私はこう思うー緊急アンケート結果報告第2弾
J6	2002.2.16	●女性に寄り添う「助産婦」をなくさないでー緊急アンケート結果報告第3弾

J・・・準備号

ニュースレター 1-6号 2002年

1号	2002.3.30	●お産環境の改革を・女性たちの声を政策に ―お産サポートJAPANスタート
2号	2002.5.30	●お産サポートJAPAN発会式に70名が参加／会員の声「助産婦さんはどこにいるの?」「一人ひとりに目を配れない自分が切なくて」
3号	2002.6.10	●私は「お産サポートJAPAN」のここに期待します
4号	2002.9.6	●「受け手」の願望と無縁な改革「助産師」への名称変更の意味するもの／医療を変えるのは消費者
5号	2002.9.6	●助産教育の知識と技術の分離ねらう「卒後教育」制度化提案
6号	2002.11.25	●男女平等とは等しく人権が尊重されること「男女雇用平等と男性助産婦問題」／学生を良質なケアの提供者に育て上げるのは教員の責任

ニュースレター 7-11号

2003-2004年

7号	2003.1.15	●私の性からだは私自身「産む環境とリプロダクティブ・ヘルス／ライツ」／カイロ行動計画に圧倒的支持 拒絶された米国の強硬姿勢
8号	2003.1.16	●おっぱいルームだより
9号	2004.3.7	●男性導入反対が(社)日本助産婦会会員の総意「書面総会決議無効確認裁判」／男女共同参画と「看護師」「助産師」問題／女性に支持される質の高い助産教育へ転換を／「助産の高度専門職大学院の認可請願署名を」
10号	2004.4.7	●女性が美しく健康で、力強く生きる ―エイボン・グループサポートの助成グループに選ばれる／NPO法人への改組を決定 2003年総会／国会議員から応援メッセージ
11号	2004.4.30	●ホームページ本格公開開始／ちょっとサポートがあれば子育ても上手にできる 助産院の出産ケアと児童虐待／助産師会 会の民主的な運営と妊産婦に配慮した温かい出産環境への努力を約束 ―男性助産婦裁判―

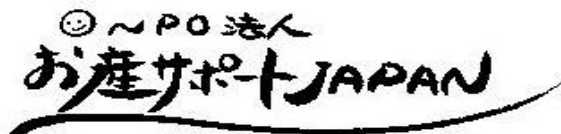
ニュースレター 12-17号

2005-2008年

12号	2005.3.15	●9回下回れば「10回程度」に満たない 円より子議員の「助産師に関する」質問主意書に政府が答弁／助産実習でのぼる10例の階段／助産師学科廃止条例は可決されたけれどもー滋賀県での県立総合保険専門学校助産学科存続運動の経験
13号	2006.2.23	●産科における看護師等の業務に関する意見書／子ども一時預かり施設 ぱあばサービスピノキオ
14号	2006.9.5	●寄稿／岩手での開業をめざして／シンポジウム報告「地域で産みたい！産む人にとってよりよい助産システムを考える」
15号	2007.2.15	●臨時総会とシンポジウムの報告：お産と地域医療を考える会／話す人、聞く人に満ちた熱いエネルギー
16号	2007.8.25	●医療法第19条の廃案を求める請願署名(助産師の開業権を守って。全国から10万の署名が寄せられました
17号	2008.5.20	●特集：産みの現場どうなる？医療法第19条改正されて1年たって現場はどう変わっているか

ホームページから

お産サポートJAPANは、出産環境をまもり、改善するために、産む人の立場で政策を提言します



事務局 〒185-0022東京都国分寺市東元町1-38-32母と子のサロン・ファミリー事業部内 Fax:042-326-2414

は	事業内容	活動報告	リンク	ニュースレター
---	------	------	-----	---------



助産師の開業権を守って！

医療法第19条の廃案を！安全確保の法整備を！

2007年3月 請願署名のお願い

開業権に関する請願署名

全国の皆様、ご協力ありがとうございます。

衆議院 79,991筆

参議院 77,128筆

計157,119筆が集まりました！

紹介議員を介しての署名提出を粘り強く進めてゆきます

NEW！ 改正医療法第19条に関する緊急アンケートⅢ結果

実施期間／2008年3月1日～3月10日

- 嘱託医に関するアンケート報告 … 2007年9月実施
行政への要望&助産システムや周産期医療保健ネットワークに関する自由記述
- 嘱託医に関する緊急アンケート報告 … 2006年12月～2007年1月実施

ニュースレター 18-22号

2009-2011年

18号	2009.1.20	●特集：産科医療保障制度を問う！「産科医療保障制度」の問題点／新しい年、女性の「産み育てる」という原点に
19号	2009.12.20	●2009年度総会 勝村氏の講演を聞く「子どもの命に意味を持たせたい」産科医療の安全のために
20号	2010.6.15	●医療法第19条改正に伴う見直しを！
21号	2010.12.20	●日本のお産政策を考える 中山まき子氏講演(神戸)
22号	2011.3.22	●7月に被災地を訪問／Mオダン博士の講演を聞いて

これから・・・、これからも・・・